

別表 1

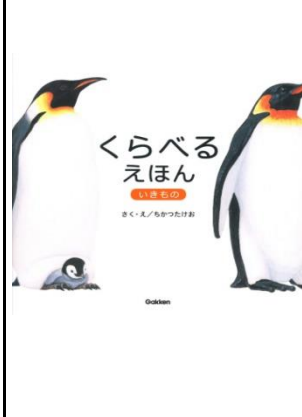
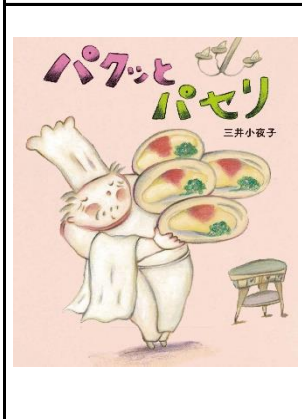
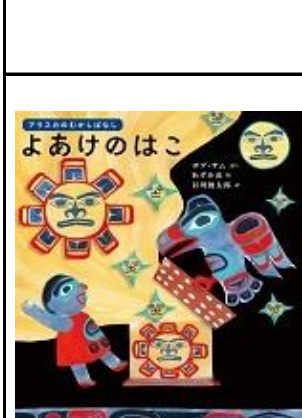
令和7年度 第2回 長野県青少年向け推薦図書一覧表 (2025-2回)

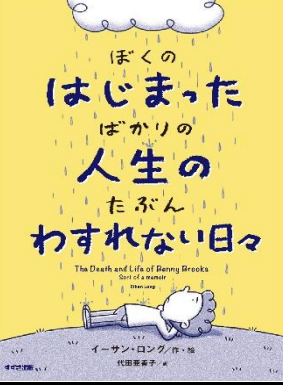
長野県社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 図書審査部会

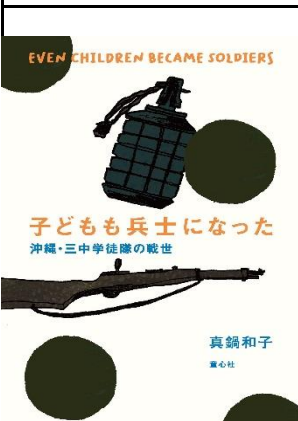
	書名	著者名	対象	本体価格(円)	発行所・発行年月日
1	くらべるえほん いきもの	作・絵 ちかつたけお	年中児～	1,450	Gakken 2025年3月
2	パクッとパセリ	作・絵 三井小夜子	年中児～	1,500	ひかりのくに 2025年1月
3	きみならだいじょうぶ！	作 コリ・ドーフェルド 訳 石津ちひろ	小学校低学年～	1,500	光村教育図書 2024年12月
4	くじらのいるこみち	文 塩野米松 絵 はたこうしろう	小学校低学年～	1,500	農山漁村文化協会 2024年11月
5	よあけのはこ アラスカのむかしばなし	語り ボブ・サム 訳 谷川俊太郎 絵 あずみ虫	小学校低学年～	2,000	あすなろ書房 2025年5月
6	あたしは勇者になれますか？	作 荒木せいお 絵 イシヤマアズサ	小学校中学年～	1,400	岩崎書店 2025年6月
7	知れば楽しいクモの世界～網のひみつと忍者のような能力！？～	著 馬場友希 谷川明男、鈴木佑弥 吉田譲	小学校中学年～	1,600	少年写真新聞社 2024年12月
8	ミハイルのハーモニカ	文 高橋良子 絵 金子恵	小学校高学年～	1,500	文研出版 2025年3月
9	ぼくのはじまったばかりの人生のたぶん わすれない日々	作・絵 イーサン・ロング 訳 代田亜香子	小学校高学年～	1,700	鈴木出版 2024年10月
10	まさきの虎	作 濱野京子 絵 こうの史代	小学校高学年～	1,400	童心社 2024年12月
11	シリーズ詩はきみのそばにいる1 きみの心が歌いだすとき、詩は……	編 日本児童文学者協会 /ポプラ社編集部	小学校高学年・中学生～	2,300	ポプラ社 2025年4月
12	子どもも兵士になった 沖縄・三中学徒隊の戦世	著者 真鍋和子 絵 多屋光孫	中学生～	1,800	童心社 2025年4月
13	アリゲーターガーは、月を見る	著 山本悦子 絵:ゴトーヒナコ	中学生～	1,500	理論社 2025年5月
14	こうしてぼくはスパイになった	著者 デボラ・ホブキンソン 訳 服部京子	中学生～	2,300	東京創元社 2025年4月
15	閉じ込められた「森の人」	著者 ミッシェル・カダルスマン 訳 村上利佳	中学生～	1,600	あすなろ書房 2025年5月
16	乱歩と千畝	著者 青柳碧人	高校生～	2,200	新潮社 2025年5月
17	願わくば海の底で	著者 額賀滯	高校生～	1,600	東京創元社 2025年2月
18	僕の悲しみに君は跳んでくれ	著者 岡本雄矢	高校生～	1,500	幻冬舎 2025年5月
19	ビスケット	著 キム・ソンミ 訳 矢島暁子	高校生～	1,500	飛鳥新社 2025年7月
20	羊皮紙をめぐる冒険	著者 八木健治 カバー写真 キンマサタカ	高校生～	1,800	本の雑誌社 2024年12月

別表2

(2025-2回)

	1		「まちがいさがし」の本はたくさんありますが、この絵本はちょっと違います。ページをめくると、左のページと右のページによく似ているいきものが登場します。例えば、ジャイアントパンダとホッキョクグマ、ライオンのオスとライオンのメス、コウイカとイイダコ、アメリカザリガニとイセエビなどです。この絵本は、まちがい探しではなく、似ているいきものを比べて、違いを考える絵本です。巻末に解答例がありますが、それがすべてではありません。二つのいきものじっくりと観察して比べてみましょう。よく見ることで、そして違いを発見する楽しみを味わうことができる季節絵本。
	書名	くらべるえほん いきもの	
	著者等	作・絵 ちかつたけお	
	出版社	Gakken	
	定価	1,450	
	対象	年中児～	
	発行	2025年3月	
			(分類番号 7 2 6)
	2		ここは、ぜんじろうさんが料理を作るレストランです。料理を作るのも運ぶのも後片づけも全部一人でやっています。一番人気の料理はオムライスです。ぜんじろうさんは、卵を焼いて、ケチャップごはんにくるりとまくと裏庭へ走っていきました。パセリを摘んできたのです。パセリをサッサササーと水で洗って、パッパッパと水気をきってオムライスの隣においてできあがりです。卵の黄色とケチャップの赤、そしてパセリの緑。ぜんじろうさんは、オムライスを作る度に、なんて素敵なのだろう、とうっとりしてしまいます。なのに、お客さんはパセリを食べてくれないのです。そんなある日、ちょっとかわったどこかの国の紳士がやってきて……。パセリが苦手な子もパセリを好きになるかもしれない野菜絵本。
	書名	パクッとパセリ	
	著者等	作・絵 三井小夜子	
	出版社	ひかりのくに	
	定価	1,500	
	対象	年中児～	
	発行	2025年1月	
			(分類番号 7 2 6)
	3		ある日、ライリーは紙飛行機を作って空まで飛ばそうと思いました。すると、そこへワシがやってきました。ワシは、自慢の翼を広げてみせて、「もっと大きくなっちゃだめだ」と言いました。そこで、ライリーは大きな紙を付け足して紙飛行機を作り直しました。そして、紙飛行機を飛ばそうとすると、今度はオウムがやってきて……。色々な鳥たちが入れ替わり立ち代わりにやってきてアドバイスをしていきます。ライリーは、たくさんの鳥さんたちに「もっと工夫が必要ね」と言われてしまいます。さて、ライリーの紙飛行機は空まで飛ぶのでしょうか。この本は、頑張っている誰かを応援するとは、どうすることなのかを伝えてくれます。「だいじょうぶ」という言葉の持つ意味を再認識することができる絵本。
	書名	きみならだいじょうぶ！	
	著者等	作 コリ・ドーフェルド 訳 石津ちひろ	
	出版社	光村教育図書	
	定価	1,500	
	対象	小学校低学年～	
	発行	2024年12月	
			(分類番号 9 3 3)
	4		4さいのゆかちゃんは、新しいお家に引っ越してきました。隣に住むへたさんは、いつも地面に腰かけています。家の前の道はへたさん自慢の土の道です。ゆかちゃんとへたさんは、お友達になりました。ある日、雨が降って土の道に水たまりができました。ゆかちゃんのお父さんとお母さんは困っています。へたさんは、たくさんできた水たまりのひとつをゆかちゃんにわけてくれたので、ゆかちゃんは大喜びです。お池に映るお空を見て楽しんでます。「ここは、わたしの海！」とゆかちゃんは言います。海に行った時に拾ってきた貝を並べて、とても楽しそうです。海だから、くじらもいる？ゆかちゃんの家はほとんど素敵になっていきます。身近にある自然から、「いのち」を受け止めることの素晴らしさを表現した絵本。
	書名	くじらのいるこみち	
	著者等	文 塩野米松 絵 はたこうしろう	
	出版社	農山漁村文化協会	
	定価	1,500	
	対象	小学校低学年～	
	発行	2024年11月	
			(分類番号 9 1 3)
	5		ボブ・サムは、アラスカ先住民・クリンギット族の語り部で、部族のリーダー的存在の一人です。自然写真家の故・星野道夫と親交が深かった人物でもあります。この本は、クリンギット族に伝わる世界に光をもたらしたワタリガラスの物語です。絵を描いているあずみ虫さんは、毎年春から秋まで半年間アラスカに滞在しています。その昔、立派な長老がお日様と月と星をスギの箱にしまってお守っていたところからお話が始まっていきます。ワタリガラスは長老からお日様と月と星を盗もうとしますが…。巻末にはアラスカ先住民・クリンギット族のことやボム・サムの語りを聴くことができるQRコードもあります。クリンギット族の文化に触れあうことができる昔話絵本。
	書名	よあけのはこ アラスカのむかしばなし	
	著者等	語り ボブ・サム 訳 谷川俊太郎 絵 あずみ虫	
	出版社	あすなろ書房	
	定価	2,000	
	対象	小学校低学年～	
	発行	2025年5月	
			(分類番号 9 2 9)

	6		運動会後の校庭で、男子が「伝説のエクスカリバー」と呼ぶ、どうしても抜けないペグを引き抜いてしまった可乃子は、晴彦に「選ばれし勇者」と呼ばれ悪い気がせず、釘を記念に持ち帰ることにする。家で釘の頭を手に押し付けていると、手に不思議な力の宿った跡ができた。それは、いろいろな物のスイッチの役目を果たしてくれる「エクスカリバーボタン」だった。優秀な姉に劣等感を抱いている可乃子は、世界の危機を救って家族を見返したいと思うが、ボタンの力は勇者になるにはショボすぎた。気づかなかった身近な人や自分の良さに改めて目を向けられる物語。
	書名	あたしは勇者になれますか？	
	著者等	作 荒木せいお	
		絵 イシヤマアズサ	
	出版社	岩崎書店	
	定価	1,400	
	対象	小学校中学年～	
	発行	2025年6月	(分類番号 913)
	7		家の中でも外でも、わたしたちの身の回りには、たくさんのクモがいる。だれもが見たことのある生き物なのに、知っていることは意外と少ないのではないだろうか。クモの糸のはり方やエサの食べ方、脱皮の仕方など「そういえば、どうやっているんだろう？」と思うようなクモの生態がわかりやすく紹介されている。アリに擬態するクモや、水の中で暮らすクモなど、わたしたちが気づかないところで生きているクモたちがいることもわかる。新しいクモの知識に出会い、生き物への興味がわいてくる科学読み物。
	書名	知れば楽しいクモの世界～網のひみつと忍者のような能力！？～	
	著者等	著 馬場友希	
		谷川明男、鈴木佑弥	
		吉田譲	
	出版社	少年写真新聞社	
	定価	1,600	
	対象	小学校中学年～	
	発行	2024年12月	(分類番号 485)
	8		北海道の宗谷海峡の北にある島、サハリン。戦前、この島は「樺太」と呼ばれ、南半分が日本領だった。現在、長野県で暮らす良太は、少年時代は南樺太の真岡で暮らしていた。友達の誠司、鉄平、清と良太の4人は、真岡でコート店を営むロシア人のミハイルと打ち解け、いっしょに狩りをしたり音楽を奏でたり楽しい日々を過ごしていた。しかし、戦争が激化していくにつれ、少年たちを取り巻く環境は徐々に変化していく。ミハイルは外国人だという理由で収容所に送られてしまう。そして、真岡にも戦火がせまっていた。戦後80年を迎える今、子どもだけでなく大人にも触れてほしい物語。
	書名	ミハイルのハーモニカ	
	著者等	文 高橋良子	
		絵 金子恵	
	出版社	文研出版	
	定価	1,500	
	対象	小学校高学年～	
	発行	2025年3月	(分類番号 913)
	9		主人公のベニーは生まれてからの10年間それなりに幸せに生きてきたはずなのに、ここ最近はまだで自分の一部が死んじゃったみたいな気分で過ごしている。両親が離婚し、母さんが家から出ていったこと、父さんが病気になったこと、自分の怒りが抑えられず友達とうまくいかないこと、学校の勉強がわからないこと……うまくいかないつらいことばかりがベニーに降りかかる。大人も子どもも気持ちをうまく伝えられずにすれ違ってばかりだけれど、それでも誰もが一人じゃないし、誰かに助けを求めることが大切だと、ベニーを通して感じられる物語。
	書名	ぼくのはじまったばかりの人生のたぶん わすれない日々	
	著者等	作・絵 イーサン・ロング	
		訳 代田亜香子	
	出版社	鈴木出版	
	定価	1,700	
	対象	小学校高学年～	
	発行	2024年10月	(分類番号 933)
	10		小学6年生の真莉愛と母は、母方の祖母の家に引っ越してきた。5年前のほんの短い間だけ暮らしたその町は、5年前の大きな地震で津波の被害にあっていた。幼かった真莉愛には当時の記憶はほとんどなかったが、保育園で出会った「まさきくん」のことを思い出す。けれど、「まさきくん」は震災で亡くなってしまっていた。もう二度と会うことはできないのだと知り、真莉愛はショックを受ける。虎の被り物を手に笑っていた「まさきくん」のことを覚えているのは、もう真莉愛しかいないのだろうか。真莉愛は周りの人に訪ねていきながら、記憶のカケラを確かなものにしていく。震災で失われた命に静かに向き合う物語。
	書名	まさきの虎	
	著者等	作 濱野京子	
		絵 こうの史代	
	出版社	童心社	
	定価	1,400	
	対象	小学校高学年～	
	発行	2024年12月	(分類番号 913)

	11		「詩」と聞くと、「難しそうでよくわからない」「自分には遠い存在だ」と感じている人もいるのではないだろうか。このシリーズは、小学校高学年からでも読める作りになっているが、内容はとても深く、大人でも十分に楽しめる内容だ。掲載されている詩は、国内外の名詩、古典、現代の楽曲（ポップス）の歌詞まで、幅広い時代、地域、ジャンルなどから集められている。第1巻ではシェイクスピア、ゲーテ、谷川俊太郎、中原中也、金子みすゞ、Ayase (YOASOBI)、短歌、俳句、漢詩などが収録されている。学校生活や友達のこと、将来のことなど、揺れ動く繊細な気持ちに寄り添ってくれる詩や共感できる言葉をみつけられるだろう。新しい発見がきつとある、心が豊かになる詩集。 (分類番号 9 1 1)
	書名	シリーズ詩はきみのそばにいる1 きみの心が歌いだすとき、詩は……	
	著者等	編 日本児童文学者協会 /ポプラ社編集部	
	出版社	ポプラ社	
	定価	2,300	
	対象	小学校高学年・中学生～	
	発行	2025年4月	
	12		今から80年前の太平洋戦争末期、日本軍はアメリカ軍の侵攻を防ぎ戦況悪化をくい止めるため、沖縄に航空基地を作り、徹底抗戦しようとする。だが、ついにアメリカ軍が沖縄への上陸作戦を開始、すべての沖縄県民が戦争に巻き込まれていく。名門・沖縄県立第三中学校の三年生は臨時の学徒兵として招集され、十分な訓練を受ける間もなく最年少14歳の日本軍兵士として前線に送られてゆく。満足な武器も持たず、砲弾が飛び交う過酷な戦場で、同級生たちは次々と倒れていく……。本書は、当時14歳の学徒兵だった方々の手記と著者の取材によって執筆された。無念の死を遂げた学徒たちの命に思いを寄せ、戦争の悲惨な実態を語り継ぐことの大切さと平和を考える一冊。 (分類番号 2 1 9)
	書名	子どもも兵士になった 沖縄・三中学徒隊の戦世	
	著者等	著者 真鍋和子 絵 多屋光孫	
	出版社	童心社	
	定価	1,800	
	対象	中学生～	
	発行	2025年4月	
	13		中学2年の朔哉は、ある夜、今は不登校になっている小学校の同級生、航を見かける。気になってあとを追うと、お城の堀に向かって「ガー」と呼びかける声が聞こえる。そこにいたのは航と19歳の葉月、水から顔を出すワニのような生き物だった。その生き物はアリゲーターガーという外来魚で、彼らが「ガー」と呼ぶ時だけ姿を現すという。それぞれ過酷な現実を抱える3人と、堀に捨てられて行き場のないアリゲーターガー。夜な夜な堀で心を通わせるという不思議な時間を過ごす中、外来魚を駆除するというテレビ番組の企画が持ち上がる。何としてもガーを守りたい3人は、広い川に逃がそうとして奮闘するが……。美しい夜の情景と優しさに満ちた物語。 (分類番号 9 1 3)
	書名	アリゲーターガーは、月を見る	
	著者等	著 山本悦子 絵：ゴトーヒナコ	
	出版社	理論社	
	定価	1,500	
	対象	中学生～	
	発行	2025年5月	
	14		舞台は第二次世界大戦中、ナチス・ドイツの爆撃が続くロンドン。13歳のバーティは民間防衛隊の伝令係として、自転車のかごに救助犬のリトル・ルーを乗せて初出動するが、あわてて女の子にぶつかってしまい、そこに落ちていたノート拾う。ノートには秘密諜報員になるための訓練の様子や、暗号文がいくつも書かれていた。重要な任務を負っていると思われる持ち主の女性が失踪していることを知り、友だちのデイヴィッド、エレノアとともに暗号の解読と女性の捜索に乗り出す。物語の中心は、限られた時間の中で謎を解こうと奮闘する彼らの機転、勇気、友情であるが、暗号文の読解の場面では読み手も一緒に挑戦でき、スパイになったような臨場感も楽しめる一冊。 (分類番号 9 3 3)
	書名	こうしてぼくはスパイになった	
	著者等	著者 デボラ・ホブキンソン 訳 服部京子	
	出版社	東京創元社	
	定価	2,300	
	対象	中学生～	
	発行	2025年4月	
	15		中学生のマリアは、亡くなったパパの故郷、大好きなインドネシアでカナダ人のママと二人暮らしだ。インドネシアの環境問題や「森の人」＝オランウータンの保護活動に熱心に取り組むが、学校のルールを守らずに政府への嘆願書を配ったことで、周囲の人を巻き込んでピンチを招き、停学処分を受ける。一方、チェスの大会でチャンピオンを目指す少年アリは、中学進学のために貧しい田舎から出てきて、おじさんのレストランを手伝いながら学校に通う。そのレストランの庭では、オランウータンのジンジャーが檻の中で監禁状態におかれていて……。熱帯の国インドネシアの環境問題や野生動物保護について知り、日本の私たちにできることは何か、考えるきっかけになる物語。 (分類番号 9 3 3)
	書名	閉じ込められた「森の人」	
	著者等	著者 ミッシェル・カダスマン 訳 村上利佳	
	出版社	あすなろ書房	
	定価	1,600	
	対象	中学生～	
	発行	2025年5月	

	16		大正8年5月10日、早稲田大学へ向かう通りにある蕎麦屋で相席となった平井太郎と小柄な学生。後の江戸川乱歩と杉原千畝である。出身中学も大学も同じと分かり会話を始めた二人だったが6歳差で接点はなく、地に足がつかない太郎と現実的な千畝とは全く方向性が違う。しかし、何物でもない二人はここから、太郎は探偵作家、千畝は外交官への道を歩んでいく。太平洋戦争が勃発し、それぞれの置かれた状況の中で悩み苦しみながらも、横溝正史を筆頭に多くの作家や著名人をはじめ、周囲の人々に助けられながら、時に交わる二人の道。日本の推理小説を発展させ後進を育て上げた乱歩と、ユダヤ人にビザを発給した千畝の人生を描く、ifの歴史的物語。
	書名	乱歩と千畝	
	著者等	著者 青柳碧人	
	出版社	新潮社	
	定価	2,200	
	対象	高校生～	
	発行	2025年5月	(分類番号 913)
	17		県立廻館高校は海の近くにある東北の高校。そこに通う菅原晋也には、人からもらった気持ちのこもった大事なものを忘れたり、失くしてしまう悪い癖があった。一年の時には美術部入部の歓迎に贈られた花束を忘れ、二年では先輩からもらった大切なボールペンを失くし、三年ではコンクール入賞祝いの花束を忘れて行った。その時々小さな謎を秘めた日常があった。美術の才能があった菅原は第一志望の美大にあっさり合格し、2011年の春、廻館高校を卒業していく。しかし彼は大学生になることはなく、震災で行方不明となってしまう。先輩、後輩、先生、同級生によって語られる菅原晋也をめぐる物語は、事実を明らかにしつつ彼の生きた日々を人々の中に繋いでいく。
	書名	願わくば海の底で	
	著者等	著者 額賀滯	
	出版社	東京創元社	
	定価	1,600	
	対象	高校生～	
	発行	2025年2月	(分類番号 913)
	18		高校三年の夏、学校祭の中庭のステージでのライブ。「やります」と告げた壮平君がギターを鳴らすとそのまま跳んだ。「君の未来が美しくあるように」と歌って。それからちょっと未来、25歳になったその時の仲間であるかおり、渚、松永、晴太、めぐると元教師の西岡は社会人になり、地元の北海道でそれぞれの道を歩んでいる。壮平は東京でバンドを組んで売り出し中だ。そんな中、母校の教員になっていた松永から、改築工事のため中庭が取り壊されるという話を聞く。「中庭がなくなる前にもう一度、あの場所でライブをやりたい」と仲間たちは動き出す。過去の思い出と現在が交錯し、またみんなで一緒に跳べる時を信じて、あのキラキラした時間をもう一度実現する青春ストーリー。
	書名	僕の悲しみに君は跳んでくれ	
	著者等	著者 岡本雄矢	
	出版社	幻冬舎	
	定価	1,500	
	対象	高校生～	
	発行	2025年5月	(分類番号 913)
	19		高校生のジェソンは退院したばかりで、音強迫症、聴覚過敏症、音恐怖症の治療を受けている。その特性のおかげで、ジェソンはビスケットの存在を音で感知することができる。ビスケットとは、何らかの理由で存在感が消え、自分を守る力を失ってほとんど他人の目から見えなくなってしまった人のこと。保育園の時ビスケットだったヒョジンを友達のだクワンと一緒に救出して以来、三人はかけがえのない仲間だ。ある日、上の階の住人とトラブルを起こしたジェソンは、家を追い出され叔母さんの部屋に居候することになる。そこで上の家からかすかな子どもの気配を感じ、救出しようとするが失敗、また病院に閉じ込められてしまう。ジェソンは周囲の人々や仲間の手を借りて、再度救出に乗り出す。人とのつながりの大切さを伝える物語。
	書名	ビスケット	
	著者等	著 キム・ソンミ 訳 矢島暁子	
	出版社	飛鳥新社	
	定価	1,500	
	対象	高校生～	
	発行	2025年7月	(分類番号 929)
	20		2006年のある日、アラビア文字に興味を持った著者は、カルチャーセンターで開講していたアラビア書道講座で学び始める。そこで作品展を行うことになり、羊皮紙を使ったら面白そうだと「羊皮紙」を調べ始める。その後中東シリアまで行き、アラビア語を堪能しつつ様々な羊皮紙に触れ、また羊皮紙に描きくなった著者は、ネットで中世の羊皮紙の作り方を見つけ、ついに著者の羊皮紙づくりが始まっていく。2007年1月、自宅の風呂場を作業場として行った、19日間にわたる初めての羊皮紙づくりは成功。さらに深みにはまった著者は、よりよい羊皮紙を求め試行錯誤を繰り返し、現在は羊皮紙の販売のほか羊皮紙専門家として世界とつながっている。好きを極めて人生を前向きに動かしていく職人の奮闘記。
	書名	羊皮紙をめぐる冒険	
	著者等	著者 八木健治 カバー写真 キンマサタカ	
	出版社	本の雑誌社	
	定価	1,800	
	対象	高校生～	
	発行	2024年12月	(分類番号 584)